

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101362		
法人名	有限会社 絆		
事業所名	グループホーム 絆		
所在地	盛岡市仙北三丁目14-41		
自己評価作成日	平成23年11月21日	評価結果市町村受理日	平成24年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370101362&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370101362&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の安心が、穏やかな暮らしになり。職員の笑顔が大切にする、気配りのある援助が、入居者の人生を豊かにするという、共通の認識のもと運営しています。その為の内部研修も始めました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家改造型の事業所である。入居者やスタッフが常時集っている食堂、各個室は広さも設備もそれぞれに異なり、個性的な住みよさが確保されている。また、火災予防の観点から個室の暖房設備をエアコンに変更しつつある。  
町内会との連携が密になされており、町内会で整備されている遊歩道の散歩コースは、入居者が常に利用しており、この地域の方々との交流に活用されている。ひいては災害時の協力体制作りに大いに有効活用している。  
入居者が安心して住みやすい、笑顔の絶えない事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケア会議は、司会等も持ち回りにして理念の確認もその中で行っている。	入居者が、その人らしくあること、を常に心がけ、スタッフ一同連絡を密にしながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仙北三丁目町内会の会員であるし、町内会の行事等にも参加しています。	町内会で整備している、せせらぎコース(遊歩道)は天気が良ければ毎日利用しており、通りかかる子供や町内の方々と接する機会は、事業所の啓発にも有効である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、地域で見守り活動で守られていた一人暮らしの認知症の方が、地域包括支援センターの支援のもと入居されました。民生委員や多くの地域の方も関わっていて喜ばれました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	従来の会議形態は継続しながら、日頃の感謝も込めて食事会なども計画して、懇親にも役立てたいと考えています。	午前中にケア会議、午後に運営推進会議、昼食を入居者も一緒に摂った。その際、ターミナルケアについて研修会を家族・医師・スタッフ・運営推進委員を含めて開催することに決定した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度、管理者変わり早速提出書類など、直接市に伺い、担当者と話しをしてスムーズな運営が出来るよう進めています。	今年(8月)は、管理者の変更があり、管理者・リーダー研修受講や各種手続き等で直接、市に足を運び、指導を受けた。また、地域包括支援センターとは利用者の紹介や待機状況、ケアマネ研修等で情報交換するなど、連携・協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的に身体拘束をしなければならない事例は発生してはいますが、毎日の安心できるケアの中で徘徊等はなくなっています。深夜帯以外の玄関の施錠はしていません。	スタッフ一同研修受講し、徹底している。利用者で自室に施錠希望の方がおり、その希望に沿っているがスタッフも合鍵を持ち、危険の無いよう対応している。防犯上、夜間の施錠のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は、乱暴な言葉づかいから。と考え丁寧な言葉掛けに努めるよう、職員一同話し合い、努めています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いままで、入居者本人の財産管理に関して相談されたケースが3件あり、その都度会議等でも制度の有無について説明し理解するようにしていました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更が生じた場合は、毎月のおたよりの中に明記し、質問等にも気軽に応じるよう家族との関係の円滑化を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は、家族、地域、包括、主治医などもメンバーとなっていて、意見を反映できる場づくりに工夫をしています。	利用料の請求書送付の際、家族へ入居者の情報を提供している。特に家族に集まっていただく機会はないが、個々に月1回は話し合っている。その際、時間をとり、広く意見・要望を聞き、それを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ケアカンファレンス時に代表者も出席して意見交換が来ています。	ケアカンファレンス会議には管理者が出席する。入居者1人に対しての思いをスタッフ全員が感想文を出して、スタッフの気づきを共有する事業所内研修を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を増やすよう、情報の公開をしていますが、金銭的な援助も含めて理解があります		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の主催事業への参加により、他事業所との情報交換になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人のニーズに合わせてながら、ケアプランの作成にあたり、自分らしく暮らす環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いを十分に伺い、生活に慣れるよう援助には細心の注意をはらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心のケアと環境・備品等整えることは、平行して行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは、見守りして、他利用者とも仲を取り持ち、仲間づくりにも援助しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間は制限なしで、本人の情報も変化がある時には欠かさず連絡しています。ケアプランの説明は毎回直接行い、要望も聞くよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回の帰宅の支援や、友人との手紙のやりとり、面会など気軽に訪ねられる雰囲気づくりにも気を配っています。	遠方に居る家族が月1回帰省して、入居者と自宅に2~3日泊まっている方もおり、介護する方への支援をしている。また、近所に住む家族と一緒に買い物に出かける等、様々な支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際のテーブルの配置は、利用者同士の関係を配慮し考えられています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡による契約の終了以外は、入院等も3件ありましたが、連絡をとり相談・支援にあたっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	9人には、9人なりの人生経験があり、生き方も違っていたので9通りの部屋や、援助方法があります。実際に一人の方は食事は孤食にしていますが、行事の時は短時間ですが皆さん一緒に食べています。	一人で食事をしたい方は、その気持ちを尊重し、お部屋でとって頂くこともある。手仕事を趣味としている方には、個室でも食堂でもやって頂けるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、本人の聞き取りを会話の中で把握して、日々の行動から推測した暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の観察を記録して、情報の共有をはかり、ケアカンファレンスにおいて現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人につき3か月に一度はケアカンファレンスにおいて、モニタリングとプランの確認を行っています。ただし、急な変化に伴うプランの変更は随時行っています。	急な変化がある入居者の家族とは、その都度連絡・相談してプランの変更を行っている。また、就寝時、かゆみを訴える方の敷き布団を家族と連絡しながら、交換し快適に休むことが出来るようにした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他に、様子記録に記入して細かく様子がわかるように工夫しています、ケアプランにも生かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あらかじめの計画とは別に、本人ご家族のその時の状況に合わせた対応を心がけています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としての、人的、環境、行事を把握しており、出掛けたり、あるいは訪ねていただいたりして、互いに刺激あっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との関係は良好であり、受診も往診をふくめ気軽な関係が築かれています。専門病院への通院相談や紹介も快く受けていただいています。	耳鼻科・眼科・精神科は家族に通院介助をお願いしている。利用者全員の主治医は、往診もしてくれる。調査当日、インフルエンザの予防注射を利用者全員が、受けていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護師には入居者の状態を伝え、受診時の報告をしている。看護師は本人との面談をし、主治医への報告もしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まず、救急搬送の際に情報の提供がスムーズにいくように個別の既往歴・通院歴・薬歴などを記録した用紙の作成をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居者の現在の状況について報告し、対応策をご家族、職員とも共通認識で共有しています。	医療連携体制(看取り)に関する指針が作成されている。今後、行いたいと考えている。前回の運営推進会議において、協力医(主治医)から、家族とよく相談しておくようにと言われている。	利用者が高齢化しており、今後、ターミナルケアの必要があることを留意し、関係者と十分に話し合われるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は、管理者、主治医に連絡し、指示を仰ぎ対応することとしています。救急救命の講習は受講済みである。H23. 11. 14		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、地域の方も参加して意見交換もしています。	避難訓練は事業所の駐車場を利用して行っている。夜勤時には、夜間通報訓練を行い、事業所独自に救命・救急講習を実施し、民生委員や近所の方々も受講して下さった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉かけには、本人の人格と尊厳を損ねないように配慮した話し方が出来ています。	職員の笑顔が入居者の笑顔を呼んでいる。職員は、関わりを楽しませてもらっている。また、職員は日頃から、言葉かけのスピード・口調、名前の呼び方など利用者の尊厳と人格を尊重した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で希望や、思いを引き出すよう援助し把握しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人のペースに合わせ、支援しています。朝のバイタルチェックの際や、軽体操の後などに天候などの話とともに散歩等のお誘いもしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品等の購入依頼時は、対応し。時には職員が化粧を援助することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューの話題や、誕生日メニューなど会話のなかで聞いたり、本人のお気に入りメニューにしたりと工夫しています。干し柿の皮むきなど、季節の食べ物づくりにも参加していただいています。	食事は、楽しんでもらえるよう、日頃の利用者の好みや要望、誕生会等の行事等を考慮し、職員が毎週献立をたてて、作っている。誕生会は昼食時に、お赤飯でお祝いする。食事の後は、利用者が食器の片付けやクロス拭きを手伝っているほか、おやつや干し柿づくりでは皮むき作業を手伝うなど職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の記録はしていませんが、体調が悪いときには摂取量のチェックをしたり意図的に水分補給、栄養補助ドリンクを使用したりしています。みなさんほぼ完食していて元気です。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者個々に合わせた対応をしていますが、義歯洗浄とうがい、職員が援助している方もいます。夕食後の就寝前は特に入念に声かけをしてケアにあたっています。訪問歯科の利用は積極的に行っています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々に合わせて対応しています。訴えない方には本人の動きをみて対応し、排泄記録を考慮した誘導によってトイレでの排泄も多くなっています。	リハビリパンツから自立された方が3名いる。訴えられない方には、排泄チェック表により誘導して、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量に気をつけていますが、排便を促す筋力リハビリも個々に行っています。またマッサージ師の利用と運動指導。下剤の服用も補助的にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、中2日3人づつで予定者を決めて入浴していますが、本人に聞いてから時間や入らないなどの希望を聞いて実施しています。たまに温泉外出では全員が入り、次の日からメンバーが変わります。	お風呂の嫌いな方も、誘導等を工夫し、その日のうちに入浴している。外出支援で温泉に出かけたときはスタッフと共に入浴を楽しんだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症の進行によって本人の意志確認が難しい場合もあり、表情などを読んでの対応をしています。昼寝るから夜不穏になるという固定概念はしていません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々に合わせた服薬支援をしています。症状にも配慮しています。お薬辞典やパソコンによる副作用調べも、特に眠剤等についてはしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一番気にかけていることは、会話による発語を促すことで、笑いも大きな要素と考えています。あとは小さな子供が出たり、水戸黄門など時代劇のVTRの活用もしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方からの協力もあり、希望者は出掛けたいですが、希望しない方にもバルコニーでの日光浴や、近所に開店したドラッグストアへの散歩も刺激となっています。	事業所の中だけで過ごすのではなく、バルコニーでの日向ぼっこ、せせらぎ通りの散歩、近くに出来たコンビニへ買い物に行く、銀行へ用足し、等支援している。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できる方は、本人が所持管理していますが、ほとんどの方は施設で預かり、購入依頼に対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは支援していますが、現在は2名だけとなりました。電話に関しては本人の希望があれば取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は民家を改造したもので、自宅のように感じていると思います。季節感は食堂の窓から見える庭の紅葉・野鳥・雪景色などで感じています。正月飾りなども施しています。	建物は2階建て民家を改造したもので、まさにアットホームそのものの雰囲気があり、居間・食堂等共用部分は広くはないが、落ち着いた居心地よい空間となっている。また、利用者の顔や行事のスナップ写真、クリスマス飾りなどが施されており、生活感や季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりには畳にテーブル、冬季は電気カーペットなどを敷いており、ソファ横になったりもしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が写真やお孫さんの書道をはったり好みにレイアウトしています。	2階建ての各居室は広さ、陽あたり、出入り口、調度品等々全て利用者本人と家族の意思に沿っており、それぞれゆったり暮らしている様子が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では本人の動きはなるべく制約しないで、見守りを重視しています。		